

サルモネラ菌の垂直感染による腸炎が考えられた一症例

◎吉田 真歩子¹⁾、米澤 由美子¹⁾、久保 優子¹⁾、山田 遼央¹⁾
石川県立中央病院¹⁾

【はじめに】

サルモネラ菌は、鶏・豚・牛といった動物の腸管や、河川、湖、下水道などに広く生息している。ヒトに対して病原性を示すものは経口感染により急性腸炎や血流感染症を引き起こす。今回、NICU入室時のスクリーニング検査でサルモネラ菌が検出され、垂直感染による腸炎と考えられた一例について報告する。

【症例】

0歳、男児。前医で日齢1に粘血便を認め、日齢2の深夜から発熱を認めた。発熱、血便、頭部腫瘤の精査加療目的に当院に紹介となった。入院時の検査結果より、細菌感染症が疑われABPC+GMで治療を開始した。

NICU入室時のスクリーニング検査として、血液、咽頭粘液、皮膚の培養が提出された。それらのうち、皮膚からサルモネラを疑う菌が検出された。医師に報告した後に提出された、尿、便、咽頭粘液からもサルモネラ菌が検出された。患者の臨床経過が悪くないこと、一般的にサルモネラ菌はABPCに感受性があることから、抗菌薬はABPC+GMで継続された。その後、薬剤感受性検

査によってABPC耐性であることがわかり、FOMに変更された。日齢12に提出された咽頭粘液、便の培養ではサルモネラ菌は検出されず、日齢16で退院となった。

【細菌学的検査】

皮膚培養では、アキュレート分画羊血液寒天/チョコレートEXII（島津ダイアグノスティクス株式会社）とポアメディアドリガルスキー改良培地Blue（栄研化学株式会社）を使用しており、培地上の集落ではサルモネラ菌を疑うことはできなかった。質量分析装置による同定検査でサルモネラ菌が疑われ、早期に医師に連絡することができた。また、感受性検査も行われ、適切な抗菌薬に変更された。

【結語】

サルモネラ菌の母子垂直感染は、頻度は低いが重症例の報告もあり軽視できない。スクリーニング検査では、予想外の菌が検出されることがあるとわかった。今後も迅速な検査と適切なタイミングでの結果報告を心掛けていきたい。連絡先：076-237-8211（内線2079）